安曇野市穂高神社

若宮社、市有形文化財に



去る四月九日に、安曇野市文化財保護審議会は真々部諏訪神社の本殿と共に当神社の若宮社本殿を市有形文化財に指定するよう、市教育委員会に答申し、二十七日の市教委定例会で正式に決定されました。

若宮社は、拝殿に向かって右側に並ぶ境内社の中央に鎮座しています。創祀は室町時代後期から戦国時代にかけて、三宮の一つとして祀られていました。今の社殿は、明治三年の式年遷宮に本殿として造営され昭和四年の式年遷宮で若宮社として移築されたものです。現在の主祭神は阿曇比羅夫命（あづみのひらふ）のみであり、相殿には信濃中将（物ぐさ太郎）が併せ祀られています。

また、若宮社は、当社で一番古い建物であります。

☆例祭日
四月八日
子安社、事比羅社、保食社、四神社と共に**末社祭**として行われています。

◆御祭神

・阿曇比羅夫命
阿曇比羅夫は大和水軍の大将軍として百済支援に大きな功績を残し、「白村江の戦い」で戦死した安曇族を代表する英雄です。その命日である旧暦八月二十七日にちなみ、穂高神社の例祭「御船祭」は九月二十七日に斎行されるとも伝わっています。

また、拝殿北側には、古代の軍船に乗り鎧姿で立つ比羅夫の像が立てられ、その勇姿が称えられています。

・信濃中将
信濃中将は、御伽草子の中の「物ぐさ太郎」の民話で知られる人物であり、文徳天皇の御代に甲斐・信濃の国司を務めました。百二十歳という長寿を全うしたことから、延命長寿の神として広く崇敬を集めています。

また、社務所正面、神馬裏には、「物ぐさ太郎」の民話を表したレリーフ碑が建立されています。


阿曇比羅夫像


物ぐさ太郎レリーフ碑

発行所
穂高神社社務所
創刊　昭和52年2月
〒399-8303
長野県安曇野市穂高6079
電話　0263-82-2003
FAX　0263-82-8770

交通安全祈願
車を買ったら穂高神社

氏神さま、氏子について
氏神さまとは自らの住む土地をお守りくださる神様のことで、その土地の暮しや生業を営む人達を氏子と言います。いつの時代にもこの土地に住む人々の生活や未来にわたる安寧を願う心が神の心と共に守ってくれています。日頃から氏神さまとのご縁を大切にいたしましょう。安曇野市穂高、等々力区・等々力町区・穂高町区・穂高区の氏神さまは穂高神社となります。

インスタグラム　ホームページ

令和八年度穂高神社歳時記（六月から十二月）

六月三十日　大祓式（茅の輪くぐり神事）
七月十四日　八坂社宵祭
十五日　八坂社本祭
七月二十五日　鹿島社宵祭
二十六日　鹿島社本祭
八月二日　祖霊祭（神道家の先祖御霊慰霊祭）
八月十五日　穂高霊社みたままつり（三ケ日手筒花火奉納）
九月五日　子供祭宵祭
六日　子供祭本祭（御船祭）
九月二十六日　本宮例祭宵祭
二十七日　本宮例祭本祭（御船祭）
二十八日　例祭翌日祭
十月七日　本宮山岳遭難者慰霊祭
八日　奥宮例祭　日本アルプス遭難者慰霊祭
十一月十九日　国幣小社列格記念祭並びに新穀感謝祭（新嘗祭）
十二月三十一日　大祓式（茅の輪くぐり神事）
除夜祭

●奉射祭（おびしゃ）

去る三月十七日、春の訪れを告げる神事「奉射祭」が行われました。市無形民俗文化財に指定されている行事をひと目見ようと多くの人たちが訪れ、神職が的に矢を射って五穀豊穣や天下太平を祈願しました。

神楽殿前には氏子総代が手作りした五尺二寸ほどの大きな的が掲げられ、神職たちが一二，五メートル離れた拝殿から十二本の矢を代わる代わる射た。矢は十二か月に見立てられ、六本が的中し、的に当たると歓声や拍手が上がっていました。



●勧学祭

四月五日午前十時より新入学児童の学業成就と健やかな成長を願う勧学祭が斎行されました。真新しい色とりどりのランドセルを背負った児童およそ八十人がお参りをしました。児童等は学業成就のお守りとお菓子を嬉しそうに受け取っていきました。

資料館だより

「望月章斎の子孫たち ルーツを求め穂高神社へ」

去る四月五日、穂高神社所蔵の「百人一首絵馬」の作者の一人である望月章斎の子孫にあたる海外在住の望月氏一行が、自らの先祖の作品を見学するため穂高神社を訪れました。

訪問のきっかけは、総合遺作展実行委員会が発行する『穂高町出身の芸術家総合遺作展』で、望月章斎・望月硯斎・望月雅章の三名が紹介されていたことによるもの。同誌を見た望月氏らが安曇野市へ問い合わせたところ、穂高神社に望月章斎が手掛けた百人一首絵馬が所蔵されていることを知り、今回の訪問に至りました。



一行は「髙島章貞・望月章斎作　百人一首」を拝観し、先祖が手掛けた作品を実際に目にすることができたことに深い感慨を表していました。



百人一首絵馬
高島章貞　書
望月章斎　画

嘉永二年（一八四九）小川国重、日岐盛吉、小平佐五右衛門、東條堅次、佐野丈左衛門、庄屋小川左衛門の七名を世話人として奉納されました。

書を揮毫した高島章貞は尊王の志厚く、その門からは自由民権運動家として知られる松沢求策をはじめ多くの偉才を輩出しています。

画を描いた望月章斎は穂高の等々力の人で、江戸に出て狩野洞章に師事し名声あり。帰郷後は子の硯斎をはじめ、丸山雲章、青柳柳斎ら多くの門徒を育てました。鷹の図に妙技をみせ、花鳥、歴史画に秀でた。章斎と深い交友があり、崇敬する穂高神社に合作のこれらの絵を残しました。

平成二十年に安曇野市の指定有形民俗文化財になっています。

望月章斎

穂高等々力に生れました。幼いころから絵画を好み、江戸で狩野洞章に師事し、画作の技を磨き、名声が大変に高まりました。その後、郷里に帰り、盛んに画作し、多くの弟子が門下に集まりました。特に鷹を描くことに長けて、その作品が多く各地に残り、「鷹の章斎」と親しまれました。また、章斎は、穂高神社蔵の百人一首の額画を作りました。能書家でもあり、高島章貞とも親交を持ちました。門弟では、青柳柳斎・丸山雲章等が知られています。一八九二年（明治二五年）に七十八歳で亡くなり、等々力の藤塚に葬られました。



望月章斎　肖像画

「安曇野市文書館安曇野ゆかりの先人たち」より

日本で唯一海神を物語る穂高造とは？

神社の本殿の屋根上には、「千木」と「勝男木」と呼ばれる特徴的な部材が据えられています。千木は屋根の両端で交叉する部材であり、勝男木は棟に対して直角に、複数本が平行に並べられるものです。これらは古墳時代には皇族や豪族の邸宅にも用いられていましたが、現在では神社建築特有の意匠となっています。

千木は、古代に屋根を構築する際、木材を交叉させて結び、その先端を切り揃えず残した名残と考えられています。千木・勝男木はいずれも当初は建物の補強を目的としていましたが、次第に装飾的要素へと発展し、今日では神社の建築様式を象徴する存在となっています。



「穂高造」と言われる独特の「勝男木」が見られる本殿



神明社は一般的な形式の構造となっている

写真　龍鳳書房編
穂高神社と安曇族より

穂高神社においては、中殿の勝男木が棟の中央から左右へと伸び、千木と直角に交差する独特の構造を有し、「穂高造」のひとつであります。さらに嶺宮・奥宮においても同様の勝男木が見られ、この形状は船の帆柱や釣竿を立てかけた姿に由来するなど諸説があり、海神ならではの構造といえます。

この穂高造を有する中殿は令和十一年の遷宮は二十年に一度の大遷宮に於いて、建て替えが行われる予定です。

一般的な神社では、丸太状の勝男木は男神の場合は奇数本、女神の場合は偶数本とされ、千木の先端も男神は地面に対して垂直、女神は水平に切り揃えられるのが通例です。穂高神社においても、別宮の神明社では天照大御神を祀るため、こうした形式の勝男木や千木の形状を確認することができます。

●夏越の大祓のご案内

大祓は、日本人の伝統的な考え方に基づき、常に清らかな心で日々の生活にいそしむため、自らの心身に生じる病や災厄の原因となる諸々の罪・穢れを祓い清めることを目的とする神事です。

この行事は、『古事記』『日本書紀』に見られる伊邪那岐命の禊祓を起源とし、古くより宮中においても行われてまいりました。中世以降は各神社の年中行事の一つとして広く普及し、現在では多くの神社において毎年執り行われる恒例の神事となっております。

また、大祓は年に六月三十日と十二月三十一日の二度行われ、六月の大祓は「夏越の祓」とも称されます。

大祓では、大祓詞を奏上し、人形（ひとがた）と呼ばれる人の形に切った白紙により、半年間の穢れを移して祓い清めます。

穂高神社では、無病息災を祈念して茅を束ねた茅の輪を神前に設け、これを三度くぐることで、穢れや災い、罪を祓い清めていただきます。

どなたでもご参加いただけますので、ぜひお参りください。



氏子崇敬者の皆様には一家に一体人形を配布致しますので、氏名と、年齢をご記入の上、お志を添えて当日までに氏子総代もしくは社務所へお納めください。

日時　六月三十日(火)
午後五時斎行
場所　社務所前



人形　記入例

茅の輪を拝殿前に六月二十日～七月五日まで設置いたします。ご参拝の折には、茅の輪をくぐり抜け半年間の罪・穢を祓い清めて下さい。

☆お志　三、〇〇〇円以上の方は神符を後日送付いたします。

三、〇〇〇円以上・・大祓守
五、〇〇〇円以上・・大祓神札・大祓守



※人形袋の裏面の記載事項に必ずご記入ください。

●穂高霊社みたま祭りと奉納手筒花火のご案内

八月十五日（土）
午後八時よりみたま祭り斎行
祭典終了後穂高神社北神苑駐車場にて

穂高霊社は穂高神社の境内地にあり、明治以後の戦争により、尊い命を捧げられた戦没者の方々を御祭神としてお祀りしており、現在の安曇野市穂高の等々力区、等々力町区、穂高町区、穂高区、白金区、矢原区、柏矢町区（一部）の出身の御英霊二三四柱がお祀りされております。

大正四年に建立された忠魂碑は、終戦後GHQ令により、余儀なく撤去されましたが、昭和二十三年に穂高霊社として創建されました。



御英霊の御霊に感謝し、お慰め申し上げる祭典として、四月に「例祭」が行われ、夏には八月十五日午後八時に「みたま祭り」が行われます。みたま祭りの祭典終了後には、となりの北神苑駐車場にて「遠州三ケ日手筒花火（えんしゅうみっかびてづつはなび）」の奉納が行われ、夏の風物詩として地域の皆様に親しまれております。

みたままつり御朱印

を頒布します。



※終わり次第終了となります

頒布期間：7月1日～8月31日

●穂高霊社　提灯奉納

穂高霊社祭事に鳥居の両脇に飾られる提灯を穂高霊社遺族である那須幸子様より御奉納いただきました。

祭事の折に参拝者を迎える提灯となります。大切に使わせていただきます。



安曇族往時の勇姿を思わせる
本宮例祭（御船祭）について

九月二十六日（土）宵祭
九月二十七日（日）本祭

穂高神社の本宮例祭は「御船祭（おふねまつり）」として全国に知れ渡っています。宵祭（九月二十六日）には前夜祭としての神事が斎行され、本祭である翌二十七日には、文字通り「御船祭」が執り行われます。

本祭当日の午前中には、子供船三艘と大人船二艘が町内を巡行し、午後二時頃になると穂高神社境内へ曳き入れられます。神事が始まり、拝殿での玉串奉奠が済むと、近隣神社各地区の氏子衆が行列を整え、神楽殿を三周します。これを「御布令が渡る」といいます。

続いて、子供船各三艘が神楽殿を三周、その後、大人船二艘が激しくぶつかり合います。この勇壮なぶつかり合いは、御船祭最大の見どころとして知られていますが、各船を彩る「穂高人形」もまた、この祭りを特徴づける大きな魅力の一つです。





穂高人形は、穂高神社の氏子地域の人々によって、長い歴史の中で育まれてきた郷土の誇る伝統文化です。その規模は壮大で、優れた芸術性が高く評価され、長野県無形民俗文化財に指定されています。

穂高人形の技術は、安曇野市穂高に伝わる伝法的な技法であり、他地域の技法を取り入れることなく、各地区の「人形師」と呼ばれる経験者の指導のもと、大切に継承されてきました。材料には木や藁など身近なものが用いられ、喜怒哀楽を感じさせる豊かな表情や、温かみのあるしぐさが特徴です。また、それぞれの船は異なる団体が担当しているため、作り方や題材、表現の違いを楽しむことができます。

さらに、穂高神社例祭に曳き出されるお船だけでなく、式年遷宮の際にも穂高人形が境内に飾られ、その壮麗な姿は祭礼に華やかな彩りを添え、多くの参拝者の目を楽しませています。

資料館の北穂高狐島下木戸の道祖神を返却

長年にわたり、北穂高狐島下木戸区のご厚意によりお借りし、お船会館に展示していた道祖神を、この度元の北穂高狐島下木戸の道祖神群へお戻しました。

二月二十四日には、お船会館において移動に伴う清祓いの神事を斎行し、その後北穂高狐島の道祖神群へ遷座。翌二十五日には、現地にて地域の方の参列するなか、御鎮座の清祓いを執り行いました。

地域の歴史と信仰を伝える道祖神として、永きにわたり展示公開させて頂いた事に感謝し、今後は地元狐島の人々を見守り、お守りいただくことを願っています。



拝殿「楽太鼓」修繕され鮮やかに

昭和三十一年五月に東京穂高講より奉献された、拝殿で使用している楽太鼓について、経年による損傷が著しくなったため、この度修繕張り替え並びに彩色の塗り直しを行いました。

楽太鼓は祭典や神楽奉奏の際に用いられる重要な祭器であり、長年にわたり神前に清らかな音を響かせてきました。修繕により鮮やかな姿を取り戻した楽太鼓は、今後も雅楽の調べとともに、参拝者に荘厳な響きをお届け致します。



元気に相撲をしよう〈参加者募集〉 第二十四回 子供相撲大会

子供祭の日、子供相撲大会を開催いたします。氏子内の男女小学生なら誰でも参加できます。友達を誘って、大勢の参加をお待ちしております。

開催日 九月五日(土)　午前八時より受付

場所 神社南神苑　土俵



敬神婦人会入会のご案内

当会では古来より日本人が大切にしてきた〝神を敬い、祖先を尊ぶ心。人の優しさ、生命の尊さ〟を学び伝え会員同士の親睦を深める活動を行っております。当会の活動の柱である小旗づくりは一つ一つ真心を込めて仕上げ皇居での諸行事等に大切に使用されます。

他にも研修旅行、研修会等楽しみながら活動して参りますので、皆様の新しい交流の輪を広げる機会にぜひご入会をお待ち申し上げます。

入会金 1000円

主な年間行事

五月　総会
七月頃　研修会
十月頃　小旗づくり
十一月　県連合総会
　　研修旅行



音色さわやか 風鈴祈祷

風鈴のご奉納を承ります

風鈴の音色には悪魔退散、厄難消除の霊力があると信じられています。風鈴を御奉納いただき、風受けの短冊に願い事を記し、鈴の音にのせて祈りを届ける御祈願を斎行致します。

- **奉納内容**　七月一日より八月三十一日迄
- ご家庭で使用の風鈴を神社へお寄せ下さい。(無料)
- 新たに風鈴をご購入の上、御奉納希望の場合も承ります。(神社にて新しい風鈴をご用意致します。初穂料金　三、〇〇〇円…風鈴守をお渡しします。)
- 風鈴に付ける短冊は神社で用意致しますので、住所・氏名・願い事をご記入願います。短冊のみの祈願も承ります。短冊は七夕御祈願として七月七日まで笹に付けて神楽殿脇へ飾り、以降は風鈴に吊します。(初穂料金一、〇〇〇円)
- **奉納者の願い事は朝拝時(毎朝のおつとめ)の際に祈願申し上げます。**



巫女さんが祈りを込めて 七夕まつり

巫女さんが手作りした、短冊・七夕飾りに願いを込めて竹に飾り付けをしませんか。

短冊にはお願い事が記入できます。ご自身で作られた短冊・七夕飾りを飾り付けても大丈夫です。皆様で賑やかに飾り付けをいただき星に願いましょう。

- **設置期間**　八月一日～八月七日　八時三十分～十七時
- **設置場所**　健康長寿道祖神前

※巫女手作りの短冊・七夕飾りは期間中に設置場所に用意してあります。



御祈祷のご案内

穂高神社では皆様のお願い事を神様にお伝えする御祈祷を毎日行っております。

一、期　間　午前九時～午後四時半

一、内　容　交通安全、家内安全、事業繁栄、商売繁盛、職場安全、厄除、八方除、合格祈願、学業成就、病気平癒、身体健全、開運招福、心願成就、安産、初宮参り、初誕生祝い、災難除、子授成就、良縁、お礼参り、人形供養、もののけ祓い、ペット長寿祈願、他願い事。

一、御祈祷料

五、〇〇〇円・七、〇〇〇円・一〇、〇〇〇円

※御祈祷料の違いはお渡しするお札の大きさなどが異なります。
※交通安全祈祷は二台目から三、〇〇〇円増となります。

安産祈願（戌の日）

六月	五日・十七日・二十九日
七月	十一日・二十三日
八月	四日・十六日・二十八日
九月	九日・二十一日
十月	三日・十五日・二十七日
十一月	八日・二十日
十二月	二日・十四日・二十六日

※示した日以外でも毎日祈祷を行っております

●郵送祈祷のご案内

遠方にお住まいの方や様々なご事情により御参拝が叶わず御祈祷を受けられない方々のために郵送等による御祈祷を承っております。ホームページの郵送祈祷をご覧いただくかお電話でお申し込みください。

神様に願いを届けよう　おねがいごとのご案内

お願い事や誓い事、神さまへの感謝を書いていただきお納めください。

祈願文は翌朝の日供祭（神様の食事をお供えし祝詞を捧げる）で神前に捧げ、お取次ぎをいたします。

おねがいごと例

・家族が元気で健康でいられますように

などご自身のお好きな事を書いていただいて構いません。

※おねがいごとの内容は公表致しません

●設置場所　拝殿（お参りするところ）北側　（常時設置）

おついたち参りのご案内

毎月初めの一日、身が引締まる朝に穂高神社の拝殿へ集い、神主さんと一緒に大祓詞（おおはらえのことば）を奉唱し、罪穢れを祓い清め、大神様の御加護をいただき、すがすがしい気持ちで一ヶ月を過ごされるようご参列下さい。

おついたち参り

・毎月一日午前八時十五分より
（一月は除く）八時半頃終了

※十分前に拝殿にお越しください。

・参列自由
（予約不要、無料）

大祓詞をお渡ししますので全員で大きな声で読み上げます。



崇敬会入会のご案内

安曇野が誇りとする式年遷宮祭や心と技を捧げる御船祭は、長い歴史の中で培われた安曇野の文化と信仰を象徴しています。

穂高神社は、海の恵みと山（陸）の幸をともに併せ持つ御神徳があり、まことに広大無辺であります。

皆様方には穂高の大神様とより一層深い御神縁を結ばれ、生き生きと栄え日々御護り頂けますよう「穂高神社崇敬会」へのご入会をお勧め申し上げます。

会員種別入会金（年会費）

一、個人会員　三、〇〇〇円
一、法人会員　五、〇〇〇円
一、名誉会員　一〇、〇〇〇円

◎特別会員

穂高神社氏子（安曇野市穂高等々力区・等々力町区・穂高町区・穂高区在住）に限る　二、〇〇〇円

ご参拝おみやげ

御神米



1,000円

あんころもち



1,200円

穂高神社参集殿にて販売しております
平日は販売していない日がありますのでお問合せください

神々の縁に抱かれて
穂高神社本宮
上高地　奥宮　**結婚式承ります**

年祭・直会（ご会食）承ります

お持ちいただくのは御霊代と御遺影のみです
◆直会のみ、お料理をご自宅へ配達、お持ち帰り用の「折弁当」もご用意できます
◇神葬祭も行えます。

お料理の予算等お気軽にご相談ください

イベントなどの会場使用もできます

【ご予約・お問合せ】
0263-82－0118

穂高神社参集殿
なごみてい
和美庭